

入賞

福島と植物の復興

蒼明学院中等部

おか

岡 ひまり

TikTokで動画を見ていたとき、ある動画が目にとまった。その動画には、外国人男性と思われる人物が防護服を着て、たくさんの物が倒れ、散らばっている場所を歩く様子が映されていた。倒れている物や周囲の風景から、東日本大震災の被災地だと推測でき、心が痛む光景だった。しかし、その場所は「帰還困難区域」だったのだ。私は、被災地の現状に対する理解不足や認識のズレを感じさせられた。少し気になって、東日本大震災の被災地の現在の状況について調べてみた。そして、原発処理水の放水が開始されたとき、処理水への誤解が多く、多数の迷惑電話が問題になっていたことを知った。そこで私は、原発事故についての正しい情報を国内外に発信していく必要があると感じた。世界中の人々に被災地の今と、正確な情報を知ってもらうことが、福島の復興にも繋がるのではないかと考えた。

このような思いから、植物を通じて森林と福島を再生するというアイデアを考えた。このアイデアには三つの理由がある。

一つ目は、森林の再生だ。近年、森林が減少しており、悪影響を及ぼしている。森林が減少することで自然災害のリスクが高まったり、地球温暖化が進行したりしている。また、動物たちの生態系にも悪影響が及んでいる。そのため、帰還困難区域に植樹を行うことで、地球環境保護と地域の自然の再生に寄与できるのではないかと考えた。さらに、近年の日本では林業に従事する若者が減少し、森林にも悪影響を及ぼしているため、こうした活動を

通じて林業や森林保護に興味を持ってもらうきっかけにもなるかもしれないと考えた。

二つ目は、世界で災害についての関心を高めるためだ。海外では地震が少ない地域も多く、地震への対応意識が十分とは言えない。そこで、福島で耐震技術の展示や地震対策のイベントを行うことで、日本の防災意識や技術を学ぶ機会を提供できると考えた。また、外国からも学ぶこともたくさんあると考えられる。これらの活動を世界で災害について話し合う機会にし、日本に限らず、世界のどこで災害が起きても冷静に対処できるようになることが目標である。

三つ目は、植物が放射性物質を吸収する働きを持っているという点だ。植物が一部の放射性物質を吸収することは確認されている。もちろん、全ての放射性物質が吸収されるわけではないが、小さな取り組みの積み重ねが、やがて大きな改善に結びつくと考えている。

これらの活動は簡単に実現できることではないが、一歩ずつ進めることで、少しずつ福島の再生や世界への発信に繋がるのではないだろうか。福島に植樹を行い、復興の象徴としての新しい姿を目指すことが、私たちの未来への貢献となると思っている。そして、福島での取り組みが世界中の人々に知られ、誤解や偏見を解消し、震災を風化させずに未来の防災意識に役立てることが私の願いだ。